

# 交 通 論 壇

発行所 (株)交通論壇社 大阪市東淀川区豊里 4-3-19 Tel(06)6328-2260

編集・発行人 小北 隆弘 <http://taxi.rondan.jp>

～“タクシー”の国際標準とは

## ◇イギリスの「進化するタクシー、アプリ」調査—チームネクスト

アジソン・リー、ヘイロー本社視察、首相官邸でブリーフィングも

全国のタクシー事業者、関係事業者らで作る「チームネクスト」の一行は8日から13日まで、イギリス・ロンドンを訪れ、オリンピックを機に政府が観光政策強化、これにともなう輸送力の増強が急展開している状況と、これに関連してタクシー、プライベートハイヤー（PHV）の配車アプリが急速に拡大、進展している実態を調査、視察するとともに、ダウニング街10番地の首相官邸を訪れ担当官と会談した。

(各企業、首相官邸、議員らとの会議等の詳細は次号から順次掲載)

～アプリで明確な国際投資戦略もつ2社

・Addison Lee 視察団一行は9日午前、企業向け配車アプリでシェアを拡大するアジソン・リー本社を訪問、同社幹部から事業概要の説明を受け、質疑を行った。同社は正式なライセンスを持つタクシー＝ブラックキャブの対極に位置するミニキャブ・車両（自家用）をアプリ会社が保有、ドライバーは労働力を提供。同社が車両を貸与するとともに、運行（車両保守）管理や接客教育などを行う形態で、日本ではワンコイン協会の町野勝康会長が目指した「企業内個人タクシー」に類似するといえる。創業は1975年に創業者が1両から始め、同業他社を買収するなどし、現在は4500両をフリート、年間800万回配車するまでに拡大。14年にはニューヨークにも進出している。また、コールセンターでは300人に上る法人顧客を中心にした配車フォロー体制を敷く。

・hailo 午後には伝統ある建物に最新のセキュリティを備えた「サマセットハウス」にある、ヘイロー本社を訪問。創業者で経営トップのRon Zeghibe 会長、創業者の一人であるRussell Hall氏らと面会。同社は正式なライセンスを持つブラックキャブドライバーのアプリ配車を軸に、ロンドンでは2万5千人のドライバーの内1万4千人が参加（全世界では6万人）し、平均一日当たり1万回の配車、1回当たり16ポンド（約3200円）の運賃。また、2秒間に1回の配車、平均到着時間3分の実績を持つとともに、今後到着時間2分のシステム完成を急ぐ。現在、ヘイロー参加のブラックキャブの実車率は65%に向上している。本社機能とは別にドライバーの休憩施設などを有し、会社幹部も率先して独立心やプロ意識の強いドライバーと人的な結びつきを重視し、管理体制を整備している。

～超高速で変化する世界のタクシー

このあと、一行はダウニング街10番地（首相官邸）を訪問、官邸のビジネスリレーションアドバイザーであるHopkins氏からイギリス政府が国際戦略として進める配車アプリの国際投資に対して説明を受け、質疑を行った。

・米英で地理試験廃止へ—10日には、国会議事堂を訪れ、ブラックキャブ関係団体の幹部を経て政界入りし

## — 交通論壇 THE TRAFFIC PRESS —

知日でもある、ハウスオブ・ローズ（貴族院）のBorwick議員と懇談。同議員からは、ニューヨークのイエローキャブがコンピューター（ナビゲーション）の性能向上で、資格試験から地理試験をなくすことが決まったことを明らかにするとともに、ロンドンでもこれまでブラックキャブの特権（流し営業）と実質的な需給調整を支えた、ナレッジスクールで3年を超す学習期間を要し、1万か所を超えるポイントの暗記が要求される地理能力を認める試験についても、近く法制度改革が行われ、廃止されるとの見通しを明らかにし、今後は交通弱者への接客技術などの代替制度などを検討する方向性を示した。このあと、貿易産業省で同省幹部との会議も行われ、タクシー・観光産業を巡る投資の現状と将来性などについて意見を交換した。

○今回のイギリス視察への同行取材、独自取材を通じ、タクシー制度の根本的な違いからすべてを並べて比較、評価することは難しいが、世界標準の観点から言えば、既に成熟した先進国では、外国からの投資をいかに導き、また、いかに有効な海外投資を進めるか。また観光を重要な経済政策として位置付け、これらに伴い過去と比べようのない速度で動く、人・物への対応の基底部分としての交通、運輸政策も過去と一線を画す改革が進められている現実があった。同時に、「google」を代表とするグローバル企業は、こうした先進諸国の交通政策の変化を掴みつつ、保有する“とてつもないビッグデータ”を活用して、人・物の移動ビジネスの新たな「国際標準」、アルゴリズムを完成させつつある。そのことはイギリスにあって、官民のそれぞれ重要な立場にある人物に直接取材する好機を得たことで知ることができた。

日本では、まもなく特定地域指定に向けた協議会が始動するが、その議論を注視し、東京オリンピックを控え、世界の潮流に目を背けたままではできなくなりつつある現状、今後のタクシーへの規制の在り方を含めた制度・政策と「世界一のタクシー」と評されてきたイギリスのそれとを比較しつつ考えていきたい。